

◎2014年3月 公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会

「ガールズ編しごと準備講座&『めぐカフェ』就労体験 修了者追跡調査」

結果要約

2013年、当協会では横浜市男女共同参画センターで2009年から展開してきた若年女性無業者の自立・就労支援事業の2012年度までの修了者163人を対象に、その後の進路や状況の変化、現在の就労状況についてアンケート調査を実施しました。

1 調査の目的

2008年度に当協会が実施した「若年女性無業者の自立支援に向けた生活状況調査」を踏まえ、2009年度からグループ型支援を特徴とした講座事業を、2010年度から就労体験事業を立ち上げ、継続実施してきた。開始から5年目の段階で、事業の実効性を検証し、今後を考えていくために2012年度までの支援の修了生を対象とし、追跡調査を行った。

2 調査の時期

2013年8月～9月

3 調査の対象

・「ガールズ編しごと準備講座」(以下、「ガールズ講座」という)第1期～第8期修了生(2009年度から2012年度までの受講者)157人と、2010年に就労体験の場として開設した「めぐカフェ」での就労体験修了者のうちガールズ講座を受講していない者6人の計163人

(ガールズ講座の受講対象者は応募時に15歳以上39歳以下の、学校や職場に属していないシングル女性[母子家庭の母を除く])としている)

・今回調査対象とした上記講座修了者157人のうちには講座後に自ら応募して「めぐカフェ」就労体験に参加し、それを修了した者約50人が含まれている。アンケート回答者62人のうち、19人が講座と就労体験の両方を利用した者であった。

4 回答状況

有効回答数 62通

回答率 39.7%(調査票不達者7人を除いた数を母数とした)

5 調査項目

- (1) プロフィール:年齢、家族の状況、学歴
- (2) 健康状態:現在の体調、気になること、健康診断の受診状況
- (3) 学校での経験・家庭での経験
- (4) 仕事の経験
- (5) ガールズ講座およびめぐカフェ就労体験の役立った点

- (6) 修了後にしたこと・役立ったこと
- (7) 修了後の就労等の状況
- (8) 悩みの相談先および今後の要望等

6 調査結果の概要

(1) 回答者のプロフィール

- ・ガールズ講座受講時の平均年齢は 27.5 歳、現在（回答時）の平均年齢は 30.0 歳。
- ・87%は家族等同居している人がいる。11%はひとり暮らしである。
- ・介護や世話をしている家族がいる人は 5%。
- ・最終学歴は大卒が 32%と最多であるが、大学中退も 10%。なんらかの「学校中退」者は計 27%に上る。

(2) 健康状態

- ・「まあまあよい」が 66%、「あまりよくない」が 19%である。が、86%の人が体調で「気になることがある」と答えている。気になるのは「体力」「気持ちの浮き沈み、メンタル不調」が過半数、「睡眠」「持病(こころ)」と続く。「月経・生理について」は 36%、「依存・嗜癖」は 11%だった。
- ・「過去 2 年間に健康診断受けていない」は 57%。その 7 割が 5 年以上受けていない。理由は「機会がない」「費用がかかる」「受け方がわからない」など。

(3) 学校での経験・家庭での経験

- ・学校での経験は「いじめられた」が 48%、「クラスの中でいじめがあった」が 42%、「1 ヶ月以上不登校だった」が 36%、「学級崩壊が起きていた」が 10%。
- ・家庭での経験は「1 人部屋があった」が 65%、「半年以上家から出ない状態が続いた」が 45%、「親がいろいろなことに干渉してきた」が 44%であるいっぽう、「親となんでも話せた」が 42%。「家にいても気が休まらなかった」が 40%、「両親の中が悪かった」が 24%。「親・きょうだいなど家族の面倒を見なくてはいけなかった」が 11%だった。「両親が離婚」「親と死別」「両親の間で暴力あり」が各 7%。

(4) 仕事の経験

- ・就労上困った経験は「人間関係がうまくいかなかった」が 60%、「パワハラを受けた」が 31%、以下「仕事を教えてもらえなかった」「同僚からいじめられた」「解雇された」「セクハラを受けた」とつづく。

(5) ガールズ講座およびめぐカフェ就労体験の役立った点

- ・講座(11 日間、約 1 ヶ月)で役立ったことは「同じ立場の人と知り合い、話すことが励みになっ

た」と「相談場所や支援機関を知ることができた」が各 54%、「自立や就労に向けて一歩踏み出すきっかけとなった」が 48%、「いろいろな状況の人と接してものの見方や考え方が広がった」が 46%だった。

・めぐカフェ就労体験(10回~30回、約2ヵ月~6ヵ月)で役立ったことは「次の就労へ向けて一歩踏み出すきっかけとなった」が 46%、「人とチームで動く練習になった」が 41%、以下「向き・不向きを知ることができた」「体調管理して通うことに慣れた」「働くことへの不安・恐怖が軽くなった」「自信がついた」の順につづく。

(6) 修了後にしたこと・役立ったこと

・したことでは「支援機関に相談に行った」が 71%と最多。「ハローワークに行った」「求人に応募」「カウンセリングに通った」「ボランティアに参加」「障害者手帳取得」とつづく。

・役立ったことは「相談に行ったこと」が 24%だが、2位は「求人に応募」と「障害者手帳取得」がそれぞれ 11%となった。ハローワークはそれより低い役立ち度となっている。

(7) 講座や就労体験修了後の就労等の状況

・「一度でも収入のある仕事をした」人は 61%、その雇用形態は「アルバイト」74%、「派遣」21%、「障害者雇用」が 13%に上っている。「正社員」は 5%のみ。

・現在の仕事は「週5日」で「1日7-8時間」でそれぞれ 47%と最多。フルタイムのアルバイトが多いことがうかがえる。

・条件として「交通費が全額支給される」人は 57%に過ぎない。

(8) 悩みの相談先および今後の要望等

・困ったときの相談相手は「親」が 55%、「友人・知人」50%、「カウンセラー・精神科医」37%、「きょうだい」21%、その次に「NPO等民間の相談機関の人」が 15%となり、「ネット上の知り合い」も 11%。「だれにも相談しない」人が 13%いた。

【自由記述より】

・講座に休まず通い続けたことが自信になった。

・受講がきっかけで障害者就労の道が開けた。

・自分がだめなのではなく、女性が経済的に自立できない社会なのだとわかった。自分を過剰に責めなくなった。

・全部自分でできなくても、いろんな人に教えてもらったり、助けてもらっていいと知った。

・悩む女性がとても多いと知り、社会的な問題として視野が広がった。適応できない自分に悩むのではなく、自分をどう生かせるかと考えが発展的になった。

・まだ一歩を踏み出せずにいる人の力になればと思うようになった。

・あまり学校に行っていないので集団に所属したことがなかったが、こうしたアンケートで気にかけてもらえてうれしい。

・就労体験では働くことの楽しさ、お金をもらう喜びを感じることができた。そこから若者サポ

ートステーションにつながり、今の仕事へとつながった。

・どうすればお互い気持ちよく働けるか、接し方や話し方の実践の場になった。失敗したり、体調の悪いときの気持ちの整え方なども体験できた。

(以下は要望として)

・働く女性の参考になる身近なモデルが少ない。成功例だけでなく、こんなふうにはバランスを取って生きている、と思えるような例を知りたい

・無給でもいいから就労体験をして、次の段階でお互いの合意で雇用契約を結べる、というようなかたちがほしい。

・障害者認定はしてもらえない、病気ではないといわれ、はざまにいる人をサポートしてほしい。生きづらい。

<報告書全文はこちらから>

http://www.women.city.yokohama.jp/girls/girls_tyousa/